時雨 恵 詩集

音舞羅 阿瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時雨 恵 詩集

【コード】

N4924M

【作者名】

音舞羅 阿瑠

【あらすじ】

詩です。

授業中に書いてみました。

これから、授業中に書いた詩をいっぱい載せるつもりですので連載という形に

タイトルは、一応真つ暗な闇の中にしときます

「真つ暗な闇の中」(前書き)

企画ですっ

詩ですっ！

いろいろやりすぎだって？

んー、そうですね。

詩は…授業中に書いたものやら

なんやらを載せますw

僕が小説書き始めたのはもともと

詩好きから始まったんですw

「真っ暗な闇の中」

「真っ暗な闇の中」

真っ暗な闇。

ただひたすらに暗く、僕の携帯だけが虚しく光っている。

真っ暗な闇。

ただひたすらに寂しく、僕が一人佇んでいるだけ

真っ暗な闇の中、僕は一人ふと振り返る。

振り返ると、未だ感じる手の暖かさが残っているようで

僕の眼からは一滴の塩辛い水が流れた。

何でもない幸せに恋をした。

君はもういない。

どこか遠くへと旅立っていった君。

真っ暗な闇の中一人佇む僕

僕の眼はどこか虚ろで

君に会いたいと願う。

真っ暗な闇の中一人

そこにあるのに見えない幸せを見つけられずに

「ROST HART」(前書き)

今回は、歌詞です

休み時間に書いた歌詞

これは・・・

うん、ネガティブだw

僕自身のことを歌詞やら、詩にすると

絶対ネガティブになるんですよねw

でも、自分自身の心情やら

過去をいつも詩にしてるし歌詞にしてるし

小説だっていつも僕の過去を垣間見るようになってます。

僕的心情だって現れたりしますしねw

「ROST HART」

「LOST HART」

1 . 置き去りにしたままの僕の心
取りに行こうとしたけどそこにはなくて
途方に暮れ迷ったあの日
僕は何故かうつむいてこの坂を上っていた

涙が出るなら哀しみはいらない
絶望があるなら希望はいらない
感情なんて消えてしまえばいい

僕は一人この丘の上で君の姿想いながら
この歌を歌う。

感情のないただのロボットの歌
天の君は聴いてくれるだろうか
ありふれてる幸せに恋した僕はもういない

2 . 置き去りにしたままの僕の心
もう取りに行こうとも思わなくなつて
途方に暮れ迷ったこの日
僕はまたうつむいてこの坂を下っていた

涙が出るなら哀しみはいらない
絶望があるなら希望はいらない
感情なんて消えてしまえばいい

僕は一人この丘をくだりながら
この歌を捧ぐ
もうどこにもいない君に捧ぐ歌
天の君は聴いてくれるだろうか
ありふれてる幸せに恋した君はもういない

置き去りのままの僕の心
このまま消えてしまえばいいと思った
そして今も思い続ける
心なんて消えてしまえばいいと

涙が出るなら哀しみはいららない
絶望があるなら希望はいららない
哀しみがあるなら喜びはいららない
笑えないから喜びはいららない
虚しいだけだから怒りはいららない
感情なんて消えてしまえばいい

「枯れた記憶」

1. 小さい頃手をつないで君と歩いていた
そんな記憶 僕にはないんだ
ごめんね君は怒るだろうけれどそれでも僕は
記憶がない

君の事あまり思いだせないけれど僕は歌うよ
枯れた記憶の中の君の為にレターソング

恋 愛 友 信 心 罪 悪
渦巻く感情 罪悪感

人にぶつけることができない僕は
ひたすら自分にあたるしかない
卑怯な僕の悲歌

どうかこの僕を
誰か殺して下さい
卑怯で 醜い この感情ごと
どうかこの僕を
誰かせめて下さい
君を守れなかった
君を死なせてしまった
卑怯な僕を

2 . 小さい頃手をつないで君と歌った
そんな記憶も僕にはないんだ
ごめんね君は怒るだろうけどそれでも
僕には記憶がない
君のことあまり思いだせないけれど僕は歌うよ
枯れた記憶の中の君の為のレターソング

恋 愛 友 信 心 罪 悪 死
渦巻く感情 罪悪感
人にぶつけることのできない僕は
ひたすら自分にあたるしかない
卑怯な僕の悲歌

どうかこの僕を
誰か殺して下さい
醜く汚いこの感情ごと
どうかこの僕を
誰かせめてください
君を守れなかった
君を死なせてしまった
卑怯な僕を

好きだった？嫌いだった？
たぶん好きだった。
いや、好きだった
それだけは覚えている

君を死なせてしまったそれも覚えてる
それ以外これ以外あれ以外
なにもなにもなにも思いだせない
消えたい消えたい消えたい
もうすぐ僕は君の元へと
走っていくから
走って謝りにいくから
待っていて

「枯れた記憶」(後書き)

うわぁ・・・
暗い。

光

優しくてあたたかくてやわらかい光

途方に暮れる中学三年生

そんな僕にやわらかい光をくれた君

僕を照らしてくれる君という名の光

遠く離れていても変わらず僕は愛します

必ず僕は愛します

3年後必ず会いにゆく

3年後僕は家を飛び出して

3年後僕は親に話をつけて

3年後僕は必ず君に会いにゆく

たとえ世界が終わるとしても

僕は君に会いにゆく

心に虹がかかったような

そんな気持ちにしてくれた

大好きな君に

冷たい闇に光が差し込んだ

僕にとっての光

優しくてあたたかくてやわらかい光

僕にとっての光は

決して消えることはなく

空のように澄みわたり

空のように時にはかげり

空のように多種多様な表情を見せる

そんな君が大好きで

そんな君が愛おしい

出会えてよかったと

心から思える

僕にとっての心の光

当たり前じゃない何か

ぎゅっとしてくれるあたたかさ

ぎゅっとしてくれるあたたかさ

なでなでしてくれるあたたかさ

ちゅっとしてくれるあたたかさ

おっしょくたおっしょくた

おっしょくたおっしょくた

なでなでしてくるおっしょくた

ちゅってしてくねるやさしさ

文だけでも伝わるあたたかさ

文だけでも伝わるやさしさ

文だけでも伝わる笑顔

文だけでも伝わる悲しみ

文だけでも伝わる寂しさ

文だけでも伝わる感情

文だけでも伝えられるあたたかさ

文だけでも伝えられるやさしさ

文だけでも伝えられる笑顔

文だけでも伝えられる悲しみ

文だけでも伝えられる寂しさ

文だけでも伝えられる感情

そんなことを当たり前だと思わない

そんなことを当たり前だと思えない

そんなことを当たり前だと思っちゃいけない

そんなことを当たり前だと思ったらそこで終わり

そんなとてつもない幸せを

ぎゅっと心に抱きとめよう

当たり前じゃないすばらしさ

当たり前じゃないあたたかさ

当たり前じゃないなにかがそこにあるから

僕は生きていける

それは当たり前じゃない何か

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4924m/>

時雨 恵 詩集

2010年10月11日04時02分発行